

これからの北区飛鳥山博物館のあるべき姿

1. 平成 17 年の「北区飛鳥山博物館のあり方」の実施と反省

北区飛鳥山博物館は、開館 7 年を経過した平成 17 年、今後の運営ビジョンを明らかにするため、「北区飛鳥山博物館のあり方」（以下、「あり方」と略称）を策定しました。「あり方」で私たちは、北区飛鳥山博物館が地域の生涯学習の基盤的施設であるという位置づけのもとに、博物館と地域の人々が資料や情報を介して出会う場として、「知のバザール」をイメージし、これを具現化する目標として 6 つの「こうかん」、行動指針として 5 つからなるミッションを掲げました。このミッションのもと、当館が「モノ（資料）・コト（情報）・ヒト（区民を中心とする全ての利用者）が出あい交流する場」として、現代社会のさまざまなニーズに対応しつつ、生涯学習活動をサポートし、人々に望まれる、活気に満ちた知的交流の場を目指しました。

その後、この「あり方」に基づきさまざまな課題に取り組み、その結果、「やるべきこと：活動方針」として掲げた項目のうち、特に生涯学習支援事業においては目標に近い成果を上げることができたと考えています。

一方で、「調査・研究」や「コミュニケーション」については、目標としたレベルを十分に達成することができず、反省点として残りました。

2. 今後、望まれる北区飛鳥山博物館の姿

「あり方」で目指した博物館のミッションがほぼ達成され、開館 15 年を迎えた平成 24 年、今後のさらなる展開を探るため、当館では北区飛鳥山博物館運営協議会におきまして、望まれる博物館の姿を検討して参りました。委員のみなさまにおかれましては、2 力年にわたって貴重なご提言をいただき、今後の指針ともなる 7 つのご意見を賜りました。

	趣旨	キーワード
意見 1	夢のある、家族でもっと来館したくなる博物館になってほしい。	夢・親しみ
意見 2	ご夫婦で、あるいは友人と来館したくなるような博物館になってほしい。	親しみ
意見 3	北区のことが何でもわかる博物館になってほしい。	地域性・情報
意見 4	触って、体感できる博物館になってほしい。	体感性
意見 5	お年寄りや障害を持つ方にやさしい博物館になってほしい。	バリアフリー・優しさ
意見 6	外国人にもわかる博物館になってほしい。	国際性
意見 7	地域や人をつなぐ博物館になってほしい。	交流

これらの意見から浮かび上がることは「知る喜びにあふれる、どんな人にも優しい、ぬくもりある博物館」の姿です。そして、学びを媒介に、「人々が共感しあえる博物館」となることが望まれる姿であるといえます。それはまさに、私たちが平成 17 年の「あり方」で目標とした姿と重なるものでもあり、同時に、その姿がまだ実現できていないことを表しています。

3 「人々が共感しあえる博物館」をめざして

私たちはこれからの北区飛鳥山博物館のあるべき姿を「人々が共感しあえる博物館」となることであると考えました。平成 17 年の「博物館のあり方」では、博物館を「知のバザール」として「モノ（資料）・コト（情報）・ヒト（区民を中心とする全ての利用者）が出あい交流する場」と位置づけ、人々に望まれる博物館となることをめざしました。この基本理念を基礎に、さらにステップアップした姿こそ、これからの北区飛鳥山博物館であると考えます。そこで 6 つの「こうかん」の延長上に、博物館活動を通じた「知的感動と共感の分かち合い」を具現化する博物館を志向します。地域とともに進みともに育つ博物館をめざします。

(1) 共感の場としての博物館

私たちは、当館で行われる多彩な展示活動・多様な講座を通じて、今後もよりよい充実を維持していきたいと考えます。そして博物館で学んだことを地域に活かし、また地域の方々の知識や情報を博物館で活かす双方向の館活動を、当館の独自性を打ち出し、いわば飛鳥山スタイルとして開発・整備していきます。

■たとえば 地域情報収集員・博物館マイスター など

(2) 共感の場を生み出す博学連携

今後も、より博物館と学校が向き合い、子供たちに共感と感動をあたえる場をより深めるために、学芸員と教員が相互に知恵を出し合い、資料を介在したさまざまなプログラムを作る場を志向いたします。これらのプログラムを通じて教員に博物館の存在価値を知っていただき、その資源を学校で活用できれば、学校現場での地域学習の機会も拡充し、延いては学校から家庭・地域、海外にも共感の輪が広がります。

■たとえば 博学連携委員会の見直し・教員向けワークショップの開催・多言語対応常設展示リーフレットの製作 など

(3) 共感が広がる地域と博物館

博物館で育まれた知的関心が利用者だけに留まらずに、広く地域社会に広がり、共感の場となるような館活動を考えていきたいと思えます。当館は平成 22 年度の組織改正により、文化財係といっしょになり、文化財保護行政も担うようになりました。地域に残る大切な文化財を守る意識を育み、次世代に残していくよう働きかけていき

ます。

■たとえば 地域ブロックごとの文化財保護推進員の設置 など

(4) 人と人が共感しあえる博物館

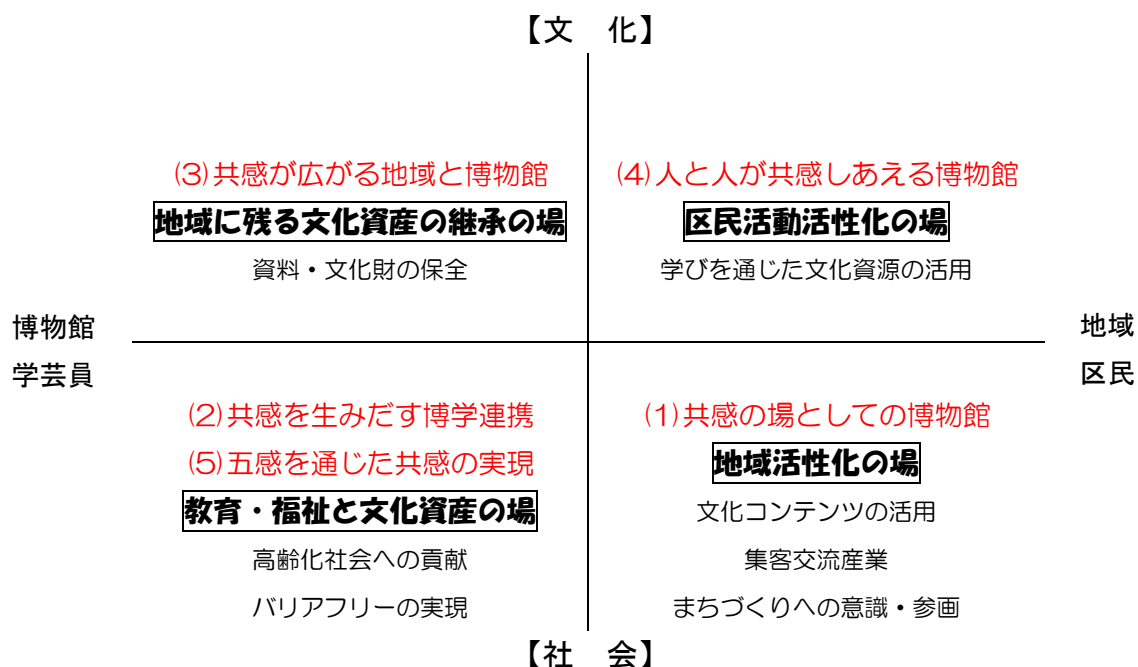
博物館活動を通じて、人と人が共感しあえる北区飛鳥山博物館をめざします。各種講座等の博物館活動に集った人たちが地域の歴史・文化を、実物資料を通じて学び、知的感動や共鳴・共感をともにできる場としてのグループ活動のきっかけ作りをしていきたいと考えます。そして各種グループ活動が博物館活動の一翼を担っていただけるように、学芸員が支援を行い、また学芸員との緊密な連携を志向いたします。

■たとえば 多様なグループの結成・友の会設置・ボランティア育成 など

(5) 五感を通じた共感の実現

博物館にはさまざまな資料があります。今後の館活動ではこれらの資料を活用した活動を考えていきたいと考えます。人は五感を通じてデータや知識を吸収します。ただ見るだけでなく、触ってみたり、聞いてみたり、感覚をより多く使えばそれだけ多くのことを受け取ることができます。五感を通じたプログラム作りをさらに拡充していきたいと思えます。

■たとえば 回想法を取り入れたプログラムの充実・小学生向けの体験プログラムのブラッシュアップ・バリアフリー対応プログラムの開発 など



4 共感を未来につなげる博物館

北区には3万年におよぶ長い歴史があり、この大地には今に至るまで、多彩な生活が営まれてきました。私たちはこれまでに北区の歴史や自然、文化についての知見を深め、これらの文化資産について博物館活動を通じて還元して参りました。私たち北区飛鳥山博物館の使命は、この北区の歴史を未来に伝えていくことにあります。そのためには博物館内部のみならず、地域の人々が自分たちの歴史を大切にしていくことが必要だと考えます。学芸員は地域の人々と手を携えて、貴重な文化資源を未来に継承し、その活動を通じて共感の輪を広げていくことが、真に地域に望まれる博物館の実現、すなわち区民のみなさまから「私たちの博物館」と思っただけの教育施設となるものと考えます。これらの「共感」の場としての地域博物館を目指して、今後飛鳥山博物館は努力を重ねていきたいと思いをします。

5. 実現に向けて

あるべき姿の実現には多様な事業展開が必要となり、それにともない膨大な作業量が生じます。

そのため、現在の博物館運営のほかに文化財保護業務、ふるさと農家体験館管理、中里貝塚史跡公園管理などを抱える状況と職員態勢を考慮しつつ、段階的かつ効果的な実施計画の検討・策定を進めていきます。

【スケジュール案】

26年度 2014	27年度 2015	28年度 2016	29年度 2017	30年度 2018	31年度 2019	32年度 2020	33年度 2021	34年度 2022	35年度 2023
〈共感の場としての館活動〉 調査・検討 準備 実施								効果測定	新あり方の作成
〈共感を生みだす博学連携〉 博学連携委員会再開 検討 実施									
〈共感が広がる地域と博物館〉 調査・検討 準備 実施									
〈人と人が共感しあえる博物館〉 調査・検討 準備 実施									
〈五感を通じた共感の実現〉 継続事業の見直し・実施 新規事業の検討 準備 実施									
開館 20 周年						飛鳥山・桜植樹 300 年		開館 25 周年	
専任学芸員 順次退職									